

今年もよろしくお願ひします！

今年は暖冬ということでしたが、2月になるとさすがに降り始め気温も低くなってきました。集団風邪もやはりはじめ、その上ノロウイルスによる下痢や嘔吐をとまなう風邪も各地で発症しており、油断はできません。

昨年は台風や地震、そして年末の津波など自然災害が多く、また凶悪な事件も多数起こるなど不安定な1年でした。そんな中、誰も疑わず周りの人々を信じきっている子どもたちの笑顔に出会ふとほっと心安らぐのを覚えます。

この子達の幸せのために今年もよろしくお願ひします。



東海北陸ブロック研修会より

福祉のあり方が変わろうとしています

福祉施策の大変換にともない重症児(者)福祉も大きく変わろうとしています。在宅では2003年度から実施された支援費制度の予算基盤がすでに破綻し、介護保険との統合が検討課題に上がってきています。また、三位一体改革による自治体負担の拡大によりさらに格差が広がるのが懸念されています。

施設では国立から独立行政法人国立病院機構に移行しての課題、措置制度の継続の問題、施設体系の見直しや地域移行(脱施設化)が進められようとしています。

このような時期に重症心身障害児(者)が人間らしく生き生きと暮らしていくには私たちがどのように考え、運動していけばよいかについて意見を出し合い協力し合っていくことが求められています。

そのためにも、現在どのように進んでいるかをキャッチし、さまざまな情報を共通理解する必要があります。

今後の障害保健福祉施策について (改革のグランドデザイン案)

H16年10月 厚生労働省障害保健福祉部



基本的な視点

1 障害保健福祉施策の総合化

従来障害別に対応してきた施策について『市町村を中心に年齢、障害種別、疾病を超えた一元的な体制を整備』する中で『地域福祉を実現』することが必要である。

2 自立支援型システムへの転換

保護等を中心とした仕組みから『障害者のニーズと適性に応じた自立支援』を通

じて地域での生活を促進する仕組みへと転換し、障害者による『自己実現・社会貢献』を図ることが重要である。

3 制度の持続可能性の確保

現行の支援費制度や精神保健福祉制度は公的な保険制度と比較して維持管理する仕組みが脆弱であるため『給付の重点化・公平化』や『制度の効率化・透明化』などを図る抜本的な見直しが不可欠である。

以上のような基本的視点を基にして様々な改革がなされようとしています。

その新しい法律のひとつ『障害者自立支援給付法』が今国会に提案されるそうですが、一番の変更点は「応益負担」が導入されるということです。今までは「応能負担」で収入に応じて負担していたのが、サービスにかかる費用の1割が収入にかかわらずかかってくるということです。サービスを受ければ受けるほど負担が増えるということで重症の人ほど負担増になります。

これからもいろいろな改革が出されてくると思いますが、子供たちが安心して生きていくためにも関心を持ってみていく必要があります。

楽しかった感覚的体験プログラム

昨年11月21日に例年通り医王養護学校をお借りして「感覚的体験プログラム」を実施しました。今回も総勢72名の参加で大盛況でした。

午前中は石川県レクリエーション協会の松下さんの指導で様々な遊びをしました。まずは準備体操もかねて、体をゆっくり伸ばしました。これは保護者の方やボランティアの方からも「気持ちいいね」という声が聞かれました。皆さんやはり疲れていらっしゃるようです。それから鈴のついた長いひもをつなげて大きな輪にしてみんなで音楽にあわせて回しました。音楽がとまると「ストップ」の声がかかり、その時鈴をもっている人が名前や好きな食べ物を紹介しました。これでみんな少し打ち解けることができたようでした。その後ポリ袋に空気を入れて風船を作りました。好きなシールを貼ったり、マジックで模様をつけたり楽しい風船ができました。ポリ袋の風船はゆっくり落ちてくるので、みんなで目で追ったり、つかまえたりして楽しむことができました。

最後はいろいろな色の風船をひとつかたまりに集めたものや、よく弾む大きな風船をみんなでついて遊びました。いくつもの風船を集めたものは、どこへ飛んでいくかわからず大騒ぎでした。

心が癒されたハーブの音色

午後は荒井庸之さんと荒井靖子さんによるハーブの演奏とお話を聞かせていただきました。荒井さんは大小三つのハーブを持ってきてくださり、音の違いにあわせて様々な曲を演奏してくださいました。それぞれの楽器の説明もわかりやすく、みんなハーブという楽器に親しみを覚えたようでした。ハーブの音色はどれも澄み切っていて

心にしみこんでいくようでみんなうっとり聞いていました。

また、康子さんのお話や朗読も落ち着いた優しい声で、ハープの伴奏にとってもよく合っていました。会場の全員が心癒され、優しい気持ちになりました。

松下さん、荒井さんご夫妻本当にありがとうございました。

尚、荒井さんからその後丁寧なお手紙もいただきました。障害の重い子どもたちのことをお気使いいただきありがとうございました。

当日、会場にて新潟県中越地震お見舞金をみなさまよりカンパいただきましたので 送金しておきました。ご協力ありがとうございました。

・10月末に行われた巡回療育相談に参加していただいた医王病院看護師の横山啓子さんから感想が寄せられましたのでご紹介します。

巡回療育相談を終えて

巡回療育相談に参加させていただき、ありがとうございました。

以前訪問看護に関わっていたこともあり、そのときに訪問していた患者さんのことが思い出されました。病棟の重症の方たちとのかかわりの経験しかありませんので、在宅療養されておられる重症児の方々のことは想像もつきませんでした。しかし、ご家族の皆さんのお話を聞き、大変な思いをされながらも、エネルギーに生活されている姿に、私自身が励まされパワーをいただいたような次第でした。ほんとうにありがとうございました。その中で社会制度の支援の貧困さや行政のレベルの低さは実感として感じ入りました。また巡回訪問させていただいた方に当院の歯科をご利用いただくきっかけも作ることができ、うれしくおもっております。当病棟といたしましても、在宅で療養されている方々にショートスティなどでご利用いただければと思っております。

尚、その際に次の方々よりご寄付をいただきましたのでご報告しておきます。

石川守る会へ

石川克己様、山本衛様、越坂由紀子様

ハートポップへ

西脇瑞枝様

ありがとうございました。

・12月5日、グランドホテル松任で開かれた第2回会員交流会は20名の参加で和気あいあいとお互いのしいひと時をすごしました。

子どもさんのお世話でむずかしいとは思いますが、在宅の方々ももう少し参加できればよかったと思います。



心に響く太鼓の音

養護学校生徒が演奏披露

野々市

県立明和養護学校（野々市町）の児童生徒で、重度障害のある子どもと保護者による太鼓グループと一緒にばちを握った子

どもたちは、プロ奏者の伴奏に合わせて演奏。感動の響きが、来場者約六百人の胸を打った。

障害が重いため通学できない訪問学級の九人は今年四月、引率の教諭や保護者と一緒に松任市の浅野太鼓を訪問し、女性和太鼓グループ姦太鼓の演奏を間近で聴いた。姦太鼓のメンバーにばちを握らせてもらい、演奏も体験した。保護者たちには「子どもが今までにならぬほど感動している」ように感じられた。

保護者から「今度は文化祭の舞台で姦太鼓と一緒に演奏させてあげたい」と要望された学校側は、県健民運動推進本部の子どもドリムフェス

ティバル事業に応募し、採用された。県の補助を受け八月から計四回、親子九組は姦太鼓とともに浅野太鼓や学校で練習してきた。

本番では二人が欠席したが、名前を呼ばれた子どもたち七人は、それぞれまばたきや口の動きで

声援に応えた後、演奏スタート。姦太鼓の伴奏をバックに、母親と一緒にうちわ太鼓をたたいた。演奏を終えた保護者の

一人は「息子とスポットライトを浴びられて、良い思い出になった」と目を細めていた。

（池田 健二）

会員の現況

新入会員	
正会員	中村さん
	谷内さん
正会員	70名
賛助会員	22名



計報 石川守る会の賛助会員でもあり、訪問教育や分教室の教育に携わってこられた玉鉾宏一先生が先日亡くなりました。まだ48歳という若さでこれからという時でした。残念でなりません。ご冥福をお祈りいたします。

2004.10
北陸新聞